

第1回 経済社会構造に関する有識者会議 終了後記者会見録

日 時：平成23年8月23日（火） 14:13～14:28

場 所：中央合同庁舎4号館6階 記者会見室（642）

内閣府政策統括官（経済社会システム担当）

○司会 それでは、第1回、経済社会構造に関する有識者会議後のブリーフィングを始めます。岩田座長よりブリーフィングをお願いいたします。

○岩田座長 それでは、本日12時から開催いたしました第1回目の「経済社会構造に関する有識者会議」についての御報告を申し上げます。

先ほど「経済社会構造に関する有識者会議」の第1回目の会議が開催されました。委員の間の互選によりまして、私が座長に選出されました。そこで、私の方から第1回目の会議の概要を御紹介いたします。会議の資料につきましては、既にお手元に配付されているのではないかと思います。

最初に、与謝野大臣が御出席になりまして、冒頭、ごあいさつをいただきました。そのポイントをまず申し上げます。

第一に、この会議には政策形成のアンカーとしての役割を果たしていただくことを期待しています。政治的な環境のいかんに関わらず、静かな雰囲気の中で自律性、独立性を持って見解をまとめていただく場として、中長期的に継続して行っていただきたいというのが第1点であります。

第二点は、当面の検討事項としまして、財政・社会保障の持続可能性について経済分析的な観点に加えまして、法制度や行政学的観点からも、その考え方、規範の在り方、実効性を担保するための方策について御見解をおまとめいただき、本年秋にも中間的な報告をいただけるようお願いしたい。これが2点目であります。

この後、今後の検討事項等につきまして委員の皆様方から問題提起をいただきまして、自由討議を行いました。委員の皆様からの御提案については、資料として委員の御提案が配付されておりますので、御参照いただきたいと思います。

私の方からは与謝野大臣の御指示と委員の皆様からの御提案を踏まえまして、当面の進め方と体制について次のとおり御提案をして、委員の皆様のお了解を得ました。

与謝野大臣から御指示いただきました財政・社会保障の持続可能性に関しましては、本会議の下に2つのワーキンググループを設置するということでもあります。1つ目のグループは「財政・社会保障の持続可能性に関する経済分析ワーキンググループ」。2つ目のグループは「財政・社会保障の持続可能性に関する制度・規範ワーキンググループ」であります。

最初の経済分析ワーキンググループにつきましては、吉川委員を主査とする。そして、景気経済成長との関係を踏まえまして財政・社会保障の持続可能性の考え方、市場の信認との関係、格差問題との関係等の論点について検討を深めるということでもあります。

2番目の制度・規範ワーキンググループにおきましては、井堀委員を主査としまして、国民の権利が守られるために勤労、納税、教育の義務はどのように果たされるべきなのか、投票権のない将来世代の利益を守るためには、どのような規範が必要なのか、必要と判断される財源を確保するための増税に議会が取り組むために、何が必要なのか等の論点について検討を深めるということでもあります。

委員の皆様からいただいた御提案につきましては、それらを幅広く取り上げ得るよう、例えば日本経済の実態と政策の在り方をテーマとしまして、3番目のワーキンググループを設置する方向で検討するということでもあります。

今後もこれから会議を運営していきますけれども、会議の節目におきまして、私の方から会議の検討状況等について、皆様方に御報告するというにいたしたいと思っております。

以上、簡単でございますが、有識者会議1回目が開催されましたので、私の方から御報告ということでもあります。

御質問等がございましたら、どうぞいただきたいと思っております。

(問) 今のお話ですと、秋ごろの中間とりまとめに向けてのテーマは、この財政・社会保障の持続可能性に絞るといえるか、これをメインテーマとして会議をするということになるわけですか。

(答) 2つのワーキンググループが差し当たり重要な役割を演ずるということだと思っております。それを経済分析の角度から分析する、もう一つのグループは制度・規範の観点から分析を深めるということかと思っております。

(問) これできりまとめた結果については、実際の政策等にどういうふうに反映されていくかというのは、大臣等からその辺の御指示とかはあったのでしょうか。

(答) 差し当たりは、経済財政担当の大臣に御報告するということかと思っております。その後の扱いにつきましては、私どもの会議として特に更にどこの会議でという御指示まではいただいておりません。

(問) 独立性を保って中長期的なものについてということなんですけれども、このテーマからすると、かなり今の民主党の代表選等でも争点になったり、政治的なところも出てこざるを得ない感じもするんですが、その辺は全く学術的な見地とかそういうところからということなんですか。

(答) 特に本日の与謝野大臣からの御指示では、政治的な環境いかに関わらず、静かな雰囲気の中で自律性と独立性を持って審議して、報告をしていただきたいというふうに御指示を受けております。

しかも、それは短期的なものではなくて中長期的に継続していただきたいということが、ポイントだったと受け取っております。

(問) 与謝野大臣から指示がありました政策形成のアンカーとしてという役割を、座長はどのように分析されていらっしゃいますか。

(答) アンカーというのは、いろいろな言葉の使われ方をいたします。例えば物価の安定のためには何がアンカーになればいいかという議論もあるわけですが、これは経済学者でもいろいろな意見は分かれますが、物価上昇率の望ましい水準を中央銀行あるいは政府が主に共有しながら設定するというのも1つのアンカーの在り方ですし、為替レート制度いかによっては、為替レートの決め方自体が物価の上昇率に対しての影響を与えるということですので、それがアンカーになる。

あるいは賃金上昇率が物価安定ということについて極めて重要だと考える方にとっては、賃金の上昇率が重要ではないですかというように、人によって中身は何がアンカーかということはいろいろ分かれると思うんですが、本日の我々の有識者会合というのは経済構造あるいは経済社会構造が、私の理解では 90 年代後半から生産年齢人口の比率が減少しているという経済社会になっていく。この中で経済政策の在り方、とりわけ財政部門の持続可能性、あるいは社会保障制度の持続可能性ということについての言わば道しるべを、この有識者会合が提供するという役割を担っているのではないかと理解をいたしております。

(問) 先ほど秋ごろにというお話でしたが、秋というのは結構間もなくだと思いませんか、大体最初は何月ぐらいに。

(答) これは大体月に 1 回ぐらいやって、四半期ごとに何らか報告をそれぞれワーキンググループがまとめるようなことを考えておりますので、秋ごろには中間報告の考え方が大まかにまとまるというスケジュールを考えています。

(問) ゴールというか、例えば 1 年とか 2 年という終わりみたいなものは示されているんですか。

(答) 特にそういうことではなしに、月 1 回ごとにやっております、それぞれワーキンググループでまた議論を深めるということで、基本的には何らか四半期ごとには報告をまとめる。しかし、まとまった中間報告というものは秋ごろにはしたいと、そういうことです。

(問) あと、与謝野大臣の言葉の中で中長期的に政治状況に関わりなく、静かにというお話があったということですがけれども、間もなく内閣改造があって、与謝野さんではない方が大臣になる可能性もあると思うんですが、そのことについては何か言及はされたんでしょうか。

(答) 勿論、すぐには総裁選挙ということが民主党で行われるわけでありまして、しかしながら、与謝野大臣からの御指示はそういった政治環境が変化することがあっても、この有識者会合は開催していただきたいという御指示だったと思います。

経済政策の担当大臣が新たな大臣に代わられるという場合には、勿論、新たな大臣の御判断を待つということではないかと考えております。

(問) 今日は初回ということで、与謝野大臣が出席されたと思うんですが、今後、政務三役の方が出席されたりとか、そういうことは想定されるんでしょうか。

(答) 基本的には自律的、独立性を持って審議して、報告をまとめるということでありまして、必ず大臣がそのまま出られるか、これは大臣も非常にお忙しいですから、勿論、今回の場合には特に大臣に御出席していただいて、その趣旨がよく伝わるような場合には御出席いただくということだと思います。

(問) 第 3 番目のワーキンググループというのは、そのワーキンググループの位置づけ等と、いつ立ち上げるのかお伺いしたいと思います。

(答) 第 3 番目につきましては、委員のそれぞれ御提案をごらんいただきますと非常に幅

広い御提案が入っております、単に財政の維持可能性あるいは社会保障制度の維持可能性ということだけではなく、エネルギー政策の在り方ですとか、成長戦略ということも同時にやはり考えるべきではないか。あるいはデフレの脱却についても考え方を示す必要があるのではないかと。多様な御意見をいただいております。

ですから、そういう中で今日、たくさん多様な意見をいただきましたので、事務方と相談しながら論点を整理させていただいて、3つ目のワーキンググループの主な論点を整理した上で、主査をどなたか今の委員の中から選出して、そして3つ目のワーキンググループを立ち上げたいと考えております。

(問)その3つ目のワーキンググループというのは、秋の報告が終わった後に立ち上げて、そちらに土俵を移して議論するというイメージですか。

(答)もう少し早い時期、例えば次回のときに論点は整理して、3つ目のワーキンググループという形で立ち上げていくことにしたいと思っております。

(問)それでは、経済財政の持続性とそれが同時並行して、秋の報告には両方ともその中身を載せたいということによろしいでしょうか。

(答)勿論、これはワーキンググループでの議論の深まりと第1、第2グループの報告の内容いかんによっていると思います。